



はじめまして

広瀬小学校校長 甲斐周作



広瀬小学校は、「自ら正しく判断でき、思いやりのある心と丈夫な体をもつ児童の育成」をめざして、677名の子供たちがさまざまな教育活動に取り組んでいます。保護者や地域の皆様方には、日頃から学校の教育活動にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

さて、私は、今年4月に広瀬小学校に赴任した甲斐周作と申します。学校創立146年を迎える広瀬小学校に、第51代校長として子供たちの成長に関われますことに、喜びと重責を感じております。子供たちは、地域の宝、学校の宝、そして日本の宝物でもあります。かけがえのない命をもった存在であり、個性と計り知れない可能性を秘めています。学校では、「広小は、ほめる教育スパイラル」を合い言葉に、子供たちのよさを認め、自己肯定感を高めながら、知・徳・体のバランスのとれた子供の育成を進めていきます。

そのためには、「目がとどく、声がとどく、心がとどく」教育が大切だと考えます。「目がとどく」つまり、子供たち一人一人をしっかりと見つめて、「なんか今日は元気がないな、何かあったかな」「この問題、昨日はできなかったけど、今日は少しだけできるようになったな」と気付いてあげる。そして「声がとどく」、実際に「どうしたの、悩みはない?」「昨日よりできるようになったね。がんばったね。」と声をかけて伝えてあげる。それで終わりではなくて、その言葉かけが「実際にその子の心に届いているか見届ける。」といった教育です。



このことは、家庭でも同じです。

学校から帰ったときの子供の様子、宿題をしているときの様子、友だちと遊んだ後の様子など、親としてしっかり見てあげて、さらにおうちでいっぱい会話をして、声を届けて、親の愛情を子供の心にしっかり伝えてほしいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、このような学校の取組をご理解いただき、各家庭・地域でもお子さんのことを「よく見て、ほめてあげて、愛情をしっかり伝えて…」いく教育と一緒に進めていきましょう。



重要「大地震・大津波発生時の児童引き渡し」について

地震発生！



1. 揺れを感じたら、直ちに低い姿勢をとり、机などの下に身を隠す。
2. 揺れがおさまったら、一次避難所の館庭に避難する。
3. 津波発生の恐れがある場合、二次避難所の「佐土原総合文化センター」に誘導し避難する。

二次避難所へ避難した場合、児童館の門扉に表示します。その場合は、「佐土原総合文化センター」へお迎えをお願いします。



「佐土原総合文化センター」で児童を保護者に引き渡し。

※ 万一の場合に備えて、普段から家族みんなで話し合っておきましょう！

